

## 会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	会 議 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">打合せ</span> ・ 協 議	文書番号	378
		決裁期日	平成 22 年 7 月 28 日
名 称	上富良野町地域新エネルギービジョン策定委員会 第 1 回会議		
日 時	平成 22 年 7 月 28 日 (水) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 28 分		
場 所	保健福祉総合センター 研修室		
出席者	上富良野町長 向山富夫外別紙名簿のとおり 21名 (策定委員 13名、オブザーバー 2名、事務局3名、委託調査会社 2名)		
内 容	<p>策定委員会の第 1 回会議を開催、その概要は次のとおり。</p> <p>1. 開会 町民生活課長から開会を宣言し、欠席の委員を報告。(2名) 町民生活課長が委員長・副委員長の選任まで司会進行を務める。</p> <p>2. 委員の委嘱 向山町長から出席した 13 名の委員に委嘱状を手交。</p> <p>3. 町長挨拶 (13:35～) 向山町長： 会議への出席にお礼申し上げる。委員に就任いただき、来年 2 月までビジョンの策定にご協力をお願いする。エネルギーを取り巻く情勢は日進月歩で進化している中、異常気象など地球温暖化が言われており、北海道も気候変動など実感されている。限りある資源(エネルギー)を有効に活用し、それを次の世代に引き継いでいくことが我々の責任。省エネから新エネへと進められている。町として積極的に新エネルギービジョンを策定し、上富良野町から先導的な発進をしていけるよう取り組みを考えていきたい。新エネルギービジョンが地域経済の活性化に結びつくよう役場をあげて議論を進めたい。皆さんの意見を活用させていただき、地域の活性化につなげていく方向付けを考えていきたいので、専門的知識をお持ちの委員も多くおられるのでご協力をお願いする。</p> <p>4. 委員長・副委員長の選任 町民生活課長： 設置要綱の規定に基づき委員長・副委員長は委員の互選によることとなっているので、委員から意見を願います。 委員： 事務局で案があれば提示されたい。 事務局(生活環境班主幹)： 昨年、省エネルギービジョンの策定に携わっていただいた北海道大学の濱田准教授に委員長を、副委員長には学校長である江幌小学校の瀬尾校長先生を推薦させていただきたい。 町民生活課長： 事務局の提案でよろしいか。 委員： 了解 町民生活課長： 委員長には北海道大学の濱田准教授、副委員長には江幌小学校の瀬尾校長先生で決定させていただく。</p>		

5. 委員長挨拶 (13:46～)

濱田委員長： 北海道大学で新エネルギーの関係に携わっており、今回のビジョン策定に協力させていただく。昨年の省エネルギービジョン策定に携わった委員も今回おられるが、活発な意見の出る委員会と感じている。省エネルギーは身近なところから対策できることから意見も出やすいと思う。新エネルギーは太陽光、雪氷、バイオマスなどハードでコストのかかる事業になりかねないが、このビジョン策定に対し皆さんから意見をいただき地域の個性が色濃く現れたビジョンにしていきたいと思うので、皆さんからの意見をお願いしたい。

町民生活課長： 要綱の規定に基づき、この後の進行については委員長にお願いする。

委員長： 議事に入る前に、初回であり各委員から自己紹介をお願いする。出席の委員 12 名、オブザーバー 2 名から自己紹介が行われ、その後事務局 3 名と調査委託会社 2 名の紹介がされた。

委員長： 当ビジョン策定事業の目的など概要について、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の藤井さんから説明をいただく。

NEDO（藤井）から配布資料に基づき説明。

委員長： 質問があればお願いする。特になければ進行させていただく。

6. 議事 (14:12～)

(1) 事業実施計画について

委員長： 事務局から説明をお願いする。

生活環境班主幹から資料 1 に基づき説明。

委員長： 質問があればお願いする。特になければ進行させていただく。

(2) 新エネルギーの概要について

調査委託会社である(株)ドーコン（竹森）から資料 2 に基づき説明。

委員長： 質問があればお願いする。特になければ進行させていただく。

(3) 町民・事業者意識調査（アンケート票）について

委員長： 資料の説明をいただき、町民・事業者が答えやすく、回答率が上がるようなものにしていきたいので意見をお願いする。

(株)ドーコン（山崎）から資料に基づき説明。

- ・町民向け 500 件、事業者向け 100 件を対象に実施。
- ・この調査は新エネルギー利用可能量の指標となる要素。
- ・回答率をあげる工夫として、枚数を最小限の 4 枚とし、回答方式は○印をつける選択式とし、書く手間を省いた。
- ・問 1-3 は回答者の属性について、問 4-9 は新エネルギーの認知度について、問 10-12 は地球温暖化について、問 13-14 は新エネルギーの問題点と町の施策について質問する。
- ・事業者には必要に応じてヒアリングを実施する。
- ・発送は 9 月 1 日、回答期間 2 週間、その後回収して集計し、結果は第 2 回

会議に報告する。

委員長： 質問があればお願いします。

委員： 問 11 について、地球温暖化問題の主な原因がCO2 となっている。CO2 は地球温暖化の一因ではあるが、様々な要因がある中で主な原因と表現してよいかどうか、原因の一つと表現してはどうか。

ドーコン： ご意見のように原因の一つに修正していく。

委員： アンケートに上富良野町の景観・環境を生かした独自の新エネルギーがあるか聞いてみてはどうか、(子どもたちにとって)これから上富良野町はどのようになったらよいのかを入れてはどうか。上富良野町における町民のエネルギーに対する意識を確認してはどうか。

委員長： 自由回答欄で町の個性を書くところがあってもよいと思う。

ドーコン： 3 ページに余白箇所があるので、ここに意見の内容を取り入れることを考えたい。

生活環境班主幹： 記載の名称に一部訂正箇所があるので修正を。問 6 の温度差エネルギー、太陽熱と太陽光の違いなど表現をわかりやすくしてはどうか。

ドーコン： 質問票は法律上の表現をあえて用いている。知られていない言葉を今後どのようにお知らせしていくかを考える趣旨で聞いている。

委員： 雪氷冷熱利用はどの程度まで含まれるのか。

委員長： 全ての分野を含むと思う。農業者自ら行っていることもあると思う。資料 2 の図に区分が示されている。

NEDO： 法律で分かれているところであるが、わかりづらい面はあると思う。

生活環境班主幹： 温度差エネルギーはヒートポンプの表現にしてはどうか。

委員： この調査で集めたいデータは何か。

ドーコン： 新エネルギーの用語を知っているかどうかを確認する。その上でどのようにしたら認知度が高まるかの方策を検討する。用語や技術などを新エネルギービジョンの中で詳しく説明することを考えている。

委員長： 法に忠実になるとすれば問 6 の 11 以降にヒートポンプを入れてはどうか。問 7 にクリーンエネルギー自動車が入っていてよいかどうか。

ドーコン： 整理していく。

委員： 実際にやってみるとわからない間があると感じた。新エネルギーの区分について説明願いたい。

委員長： 資料 2 の図のとおり、新エネルギーに定義されているものは 10 種類であり、ヒートポンプなどは新エネルギーから外れることとなる。

委員： 難しかったのは各エネルギーの具体的なことがわからないため、新エネルギーに入る入らないは厳密にどういうことか。

委員長： 3 年前まではヒートポンプなど全て新エネルギーであったが、一線が引かれた経過がある。

NEDO： 2007 年までは同じであったが、法律の改正があったところである。

委員長： 新エネルギーは普及の進んでいないものを国が応援するもので、ヒートポンプは実際に進んでいる認識と思う。

委員： 町においてハイブリッド車の普及はどうか。

町民生活課長： ハイブリッドなどの言葉がやっとはやりだしたが、町民にはまだ身近に感じられていないのではないかと。

委員： 言葉そのものがわからないという人はいると思う。問6の前に言葉を知っているかを聞いてはどうか。

委員： 問6のご存知の定義も個々で違うので、言葉を知っているかを聞いているのであれば、その言葉と書いてはどうか。

委員： 高齢者の方もいるので、カナをふるなど読みやすさを考慮してはどうか。

委員： 問8ではどういうものに興味を持っているかの意思を聞きたいと思うので、新エネルギーのくくりにこだわらないで何を導入したいかを聞いてはどうか。

委員： 私たちは日ごろ聞いている言葉で馴染みもあるが、一般の方には厳密に回答できないのではないかと。大きなくくりでわかりやすくするなど身近な表現に工夫できないかと。身近なものでは太陽熱やバイオマスも糞尿などは上富良野に身近なものと思う。

委員： 問8の設問では、あなたが家を建てるとしたら何を導入したいか、公共施設には何を導入したらよいかのような表現にしてはどうか。

ドーコン： わかりづらい点は多々あると思うが、問4からは言葉の意味を知っているかどうかを聞き、導入量と導入例の把握を行うこととしている。今後、上富良野町で導入できるエネルギー量の把握のために問8-9を設定している。あえて難しい法律の用語を用いているが、最後に用語集的なものをつけることも考えられる。

委員： 合わせて図をつけることもわかりやすいと思う。太陽光や風力などの技術的なことも啓蒙として載せてはどうか。

委員： あまり詳しくして膨大な資料にならないよう、簡単なものにしてはどうか。

ドーコン： 用語集にA4の1枚程度の概要資料をつけてはどうかと思う。

委員： 問6-8はエネルギーの整合性をとってはどうか。ヒートポンプやエコキュートを実際に導入していても温度差エネルギーではわからずに記入できないことも考えられるので、記入できることを考えてほしい。10数件は導入できているので、それが把握できないのであればデータとしてもつたいないと思う。ヒートポンプの取り扱いはどのようになっているのか。

ドーコン： エコキュートは省エネルギーの分野であり、ヒートポンプは新エネルギーでは深く掘り下げないこととしている。言葉の定義としては新エネルギーのくくりの中に入っている。アンケートではあえて入れていないが、区分けにおいてあいまいな点がある。

委員： 問 13 に省エネルギーの言葉が出てくる。新エネルギーに特化するの  
であれば新エネルギーとしてはどうか。

ドーコン： 大きなくくりとして地球温暖化問題があり、全て入るが割り切  
りとして新エネルギーに表現することもある。

委員： 一般の町民を対象にするのであれば難しくせずわかりやすいものに  
してはどうか。回答してもらえるように質問量など工夫が必要と思う。

委員： 回収方法はどのように考えられているか。

生活環境班主幹： 返信用封筒を入れポストに投函していただくことを考え  
ている。

委員： 地域ごとに回収することは考えられないか。

委員： 町民の関心ごとでなければ難しいのでないか。

委員： アンケートの結果がなければ調査は進まない。字が読めないとか、  
面倒くさいことは出てくるが、中身をもっとやわらかい表現にするなど、  
アンケートの趣旨を崩さない程度で工夫することが必要と思う。

委員： 回収率の状況はどうか。

ドーコン： このアンケートは他地域の意見も受け改善してきたもの。昨年  
の省エネルギーアンケートの回収率は約 40%であった。無作為アンケート  
で 40%は高い数値であり、通常は 20%程度。

委員長： 40%程度にはしたいと思う。

委員： この程度の回答率でそれを町民の意見として解釈することでよいの  
かどうか。回答率は半分程度は必要でないか。ヒアリングすることも手法  
ではないか。

委員： わかっている人だけが回答し、わからない人が回答しないことにア  
ンケートの意味がないと感じられている。町民の意識調査もいれて行うこ  
とも手法と思う。

委員： 難しい言葉もあり、新エネルギー含めて言葉を知っているかどうか  
を聞いてみてはどうか。その上で質問を取ってはどうか。

委員： アンケートの回収率はどの程度あれば有効か。

委員長： 2割代から有効と考える。

委員： 8割の評価をどうするか。興味がないからとするかどうか。

委員： 興味を持ってもらうためのアンケートであれば、興味を持ってもら  
う内容にすることが必要。

委員： 難しい言葉の羅列であれば面倒で回答してもらえないと思う。

委員長： 皆さんの意見を調整させていただき 9月のアンケートにつなげて  
いきたい。

#### (4) 先進事例について (15:22～)

生活環境班主幹から資料 4 に基づき説明。

・5 地点のうちから日帰りが可能な箇所とし、事務局では 2 と 5 を提案した  
い。

・日程は相手方と調整し、アンケートと合わせて、皆さんにお示しし意見を  
いただきたい。

#### 7. その他

委員長： 全体を通して意見いただきたい。

委員： 地域に根ざしたエネルギーとして、十勝岳は現在国立公園として規  
制されているが、他国では木の生えていない箇所では地熱などの開発が行  
われている。次の世代の参考として、この地域にどのようなエネルギーが  
あるのか、可能性があるのか調査できないか。地熱は我々には中々調べら  
れない分野であり、この中で踏み込んでいただけないか。

委員長： 貴重な意見として賜りたい。

上川総合振興局： 委員には学校関係者もおられるので、小・中・高校の生  
徒にアンケートを取ってみてはどうか。アンケートは子どもにもわかりや  
すいように代えてはどうか。学校を通じて実施すれば回収率も高いのでな  
いか。次世代を担う子どもの意識付けにも効果あると思う。

委員長： 貴重な意見と思う。

委員： 教育委員会にも協力を求めてはどうか。

事務局： 学校等に相談していきたい。

NEDO： 活発な意見を出していただいたことに感謝する。

生活環境班主幹： 第2回会議を10月29日（金）に予定させていただく。

後日、案内とアンケート票をお送りする。

委員長： これをもって第1回会議を閉じていく。

終了 (15:28)

## 上富良野町地域新エネルギービジョン策定委員会 委員名簿

任期：平成22年7月1日～平成23年2月28日

(平成22年7月1日現在)

所 属	勤務先・職名等	氏 名	出欠	備考
北海道大学大学院工学研究院 空間性能システム専攻・環境工学研究室	准教授	濱 田 靖 弘	出	
北海道電力株式会社 富良野営業所	所 長	松 井 利 顕	出	
LPガス協会上川支部富良野分会上富良野支部	道央エア・ウォーター株式会社 上富良野サービスセンター	鈴 木 隆 之	出	
上富良野町石油組合	久保商店	久 保 儀 之	出	
上富良野町建設業協会	株式会社 健名工建	健 名 康 則	出	
上富良野町商工会	株式会社 有我工業所	有 我 充 人	出	
社団法人かみふらの十勝岳観光協会	株式会社 アラタ工業	荒 田 政 一	出	
社団法人北海道建築士会上富良野支部	有限会社 黄田建設	黄 田 正 行	出	
ふらの農業協同組合上富良野支所	理 事	富 田 成 一	出	
道北電気工事事業協同組合富良野支部	有限会社 大久保電気工業社	大久保 和 夫	出	
上富良野町校長会	江幌小学校校長	瀬 尾 祐 二	欠	
上富良野町教頭会	上富良野小学校教頭	田 村 啓 一	欠	
環境ボランティア野山人	代 表	佐 川 泰 正	出	
公募		大 西 邑 子	出	
公募		水 島 雅 夫	出	

### 《オブザーバー》

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構		藤 井 清 文	出	
北海道経済産業局 資源エネルギー環境部 エネルギー対策課	課長補佐	柳 沼 勝 利	欠	
北海道上川総合振興局 産業振興部商工労働観光課	主 幹	星 昌 浩	出	

### 《事務局》

上富良野町役場 町民生活課 生活環境班	課 長	中 田 繁 利	出	
	主 幹	林 敬 永	出	
	主 査	谷 口 裕 二	出	

### 《委託調査会社》

(株)ドーコン 都市環境部	副技師長	山 崎 真 也	出	
	副主幹	竹 森 憲 章	出	